

MOOSICLAB2019
長編部門スペシャル・メンション
(日高七海)受賞

シネマカリテ・
ファンタステック
コレクション2018

仙台短篇
映画祭2018

Kisssh
-Kissssssh
映画祭2018

さぬき映画祭
2019

ええじゃないか!
とよはし映画祭2019

いつか輝いていた 彼女は

青春っていつも
何かがたりない

小倉青 mahocato 日高七海 里内伽奈 柳澤果那 やすだちひろ KJ
(MINT mate box) (MINT mate box) (MINT mate box)

監督・脚本:前田聖来 | 主題歌:MINT mate box「青春っていつも何かがたりない」(MMB RECORDS) | 企画:直井卓俊 | プロデューサー:和田有啓 | 助監督:岩瀬航
制作担当:ユ・ウンビ | スチール:中本れみ | 音楽:鯨岡弘識 | 宣伝協力:ポダバカ | 配給・宣伝:SPOTTED PRODUCTIONS | カラー | スタンダード | 35min

©2018「いつか輝いていた彼女は」製作委員会

女優出身の監督・前田聖来が、かつて自身が感じていた「芸能活動」と「学校生活」での息苦しさをベースに、どこまでも冷めた目線で描く、リアリティある女子高生の嫉妬と人間関係。

学校を舞台にすると「画が似てくる」くらいはどうしてもある。

その点、前田聖来監督の目線の潜在的スケールは学校を超えている。

女子同士の自意識の小競り合いや

セコいパワーゲームを見つめるシニカル度が際立っており、

数年の推移ながら諸行無常の感触まで漂うところにおののきました。

今度は35分じゃなく95分くらいの物語を書いて！

——森直人(映画評論家)

学校ってただでさえ、監獄、収容所っぽいの地方で芸能科がある高校ってそれだけで地獄味が溢れます。

高校生なんて何にでもなれるし、何者でもないのに、「芸能科」という何者になることを求めてくるなんて

自意識の生産ライン、フル稼働しているじゃないですか。

おかげさまで女の絶妙なマウンティングを取り合う、さりげなくディスリ合う会話の見本市に。

「読モのくせにマスクする〜?」

「読モのオーディション受けていたらしいよ」とか

彼女たちにとって「読者モデル」でも何者かになっている事がどれだけ脅威なのか痛いほど伝わってくる。

地獄を見せられた後だから「最初すげえゆるいな」と思っていたmahocatoの言葉が全然違った印象に聞こえる。

あと、抜け出せもしなかった小倉青演じる茜の虚無感たるや。

この街の片隅で茜を見つきたいと思っている。

——大下直人(Kisssh-Kissssssh映画祭/スタッフ)



ネクストブレイク候補として注目されるバンド、MINT mate boxのボーカルのマホ(mahocato)は、取材で母校の高校に訪れ、当時の友人・茜(小倉青)に想いを巡らせる。二人は高校の芸能科に在籍共に音楽活動をする仲間だった。高校時代のある日、マホは茜を置いて彼氏と下校し、予定していたライブを辞めると電話で伝える。茜はマホの発言に憔悴しているが、その茜の姿をひそかに喜ぶのは友人の女子達である。お互いを比べ合う女子高生たちの純粋かつ歪んだプライドを、痛々しくリアルに描く。

若手映画監督・ミュージシャンの登竜門となっている映画祭「MOOSIC LAB 2018」、注目インディペンデント映画が参戦する「仙台短編映画祭」「Kisssh-Kissssssh映画祭」「さぬき映画祭」「とよはし映画祭」など数々の映画祭にて招待上映。女優出身の監督・前田聖来は、かつて自身が感じていた「芸能活動」と「学校生活」での息苦しさをベースに、どこまでも冷めた目線で、女子高生の嫉妬と人間関係をリアリティを追及した演出で描く。主演にはミスiD2018出身の小倉青。音楽は、ティーンエージャーから熱い支持を受けるSNS発信で結成した3人組ロックバンド「MINT mate box」が参加。35分と珍しい中編作品ではあるが、密度の濃い作品となっている。

2019 4.19(金) → 25(木)
限定レイトショー!

当日一般 = ¥1,300

公式サイト <https://flicksmovie.wixsite.com/itsukano219>

公式ツイッター [ITSUKANO219](https://twitter.com/ITSUKANO219)



JR吉祥寺駅北口、吉祥寺パルコ地下2階

UPLINK 吉祥寺

0422-66-5042 <https://joji.uplink.co.jp/>

●初日舞台挨拶ほか前田監督&ゲストによる連日トークショー、関連ショートフィルム併映など連日イベントを予定!